

日本 リハビリテーション 病院・施設協会誌



2019年夏
No.172



日本リハビリテーション病院・施設協会創立30周年 特別号

巻頭言

30年、そして「Next 30」 斉藤正身 3

創立30周年 祝辞 4

日本リハビリテーション病院・施設協会の沿革 14

リハビリテーション医療研修会一覧 15

当協会が積極的に関与したリハビリテーション施策等 16

地域リハビリテーション定義の変遷 17

日本リハビリテーション病院・施設協会シンボルマークについて／リハビリテーション・サミット2015 宣言文 19

委託研究事業・研究事業報告書 20

各種委員会活動・委員会報告書 23

書籍の発行 28

役員一覧 30

委員会一覧 31

役員派遣団体等 33

REPORT

日本リハビリテーション病院・施設協会設立30周年記念祝賀会に参加して 佐藤英雄 34

お知らせ

2019年 当協会主催／共済 学会・研修会 13

30年の思い出 22, 27

編集後記 横串算敏 36

巻頭言

30年、そして「Next 30」

齊藤正身

日本リハビリテーション病院・施設協会 会長
霞ヶ関南病院 理事長



令和元年5月17日、日比谷の東京會館にて日本リハビリテーション病院・施設協会（以下、当協会）の創立30周年記念祝賀会が開かれました。当協会が日頃からお世話になっている方々をご招待し、役員や委員会メンバーを含めて112名の皆さんと迎えた祝宴でした。前号の巻頭言で当協会の30年間の足跡をご紹介しましたから、今号の巻頭言では、個人的なことになって申し訳ありませんが、「協会と私」をテーマに述べたいと思います。

当院（霞ヶ関南病院）はいわゆる老人病院としてスタートしましたが、あくまでも在宅復帰を目標にし、平成の始めから必要なハード・ソフトの両面の充実を図ってきました。訪問・通所等のコミュニティケア・サービスの充実積極的に取り組み、地域では行き過ぎと噂されるほどのリハビリテーション提供体制の整備に躊躇せずチャレンジしてきました。なぜ躊躇せずに突き進んできたかという、浜村明德先生、そして石川 誠先生との出会いがすべての始まりでした。とにかく両先生の熱い想いに後押しされ、地域医療への取り組みの中心にリハビリテーションを位置づけたわけです。会員になったのは、平成7年です。その後、全国デイ・ケア協会の会長職や回復期リハビリテーション病棟協会理事などを仰せつかり、平成13年より当協会の理事として活動が始めました。当時は、澤村誠志先生が会長で、私にとっては雲の上の存在の先生だと思っていました。しかしながら、気さくに話しかけてくださったり、海外の先進事例を紹介してくださったり、そして何よりも地域リハビリテーション体制を整備するこ

との重要性を教えてくださいました大恩人です。この先生方と仕事がしたいと強く思ったのがこの時期です。そして平成15年に浜村会長・石川副会長体制がスタートした時点で、栗原正紀先生とともに常務理事として活動が始まりました。当時の三役会は、会長・副会長・常務理事2名の4人です。浜村先生と私は、高齢者リハビリテーション研究会のメンバーとしての活動も始めていましたので、とにかく毎日が忙しく、苦しく、そして実はとても楽しい充実した時期だったと思います。明日への夢を語り合いながら、それを制度につなげていく過程に携われたことは、本当に貴重な経験だったと思います。個人的には、高齢者のデイケア（デイホスピタル）への思いが強かったですから、元来、多機能多目的な医療サービスとしてのデイケアを日本に根づかせることを使命と感じて活動していました。平成22年からは、社会保障審議会介護保険部会の臨時委員としての仕事も加わりましたが、全国デイ・ケア協会や当協会の代表として、高齢者へのリハビリテーションの必要性を訴え続けてまいりました。

誌面の関係もありますから、その後の昔話はまたの機会にいたします。しかし、わかっていたいただきたいのは、私たちはいつも前を向き新たな時代に夢を描き続けてまいりました。それはこれからも続きます。昨年からは始まった新たな役員の方々と「Next 30」を描いていきたいと思っています。そのためにも、会員の皆さんの現場の声を十分に反映できる協会運営が求められると思っています。ともに頑張りましょう。

※このページ以降の誌面をご覧ください。場合は、
当協会への入会が必要です。

ご入会のお手続きは下記へ



【入会について】

<https://www.rehakyoh.jp/join.html>